

字音接尾辞「歴」について

張 明

[キーワード：①字音接辞 ②接尾辞 ③前接語 ④使われ方 ⑤分類]

1. はじめに

字音接辞とは、「未[・]発表[・]新[・]横[・]綱[・]両[・]チ[・]ーム」「勉[・]強[・]家[・]小[・]型[・]化[・]ス[・]ペ[・]イ[・]ン[・]風」の「未[・]新[・]両」「家[・]化[・]風」のように、主に二字以上の漢語や和語、外来語に前接または後接して合成語を形成する字音形態素のことを指す。「未[・]新[・]両」のように、二字以上の漢語や和語、外来語に前接して合成語を形成するものは字音接頭辞、「家[・]化[・]風」のように、後接して合成語を形成するものは字音接尾辞であるとされている（山下2018、張2018）。本稿の研究対象である「歴」は「社会人歴」「引越し歴」「サッカー歴」のように、二字以上の漢語や和語、外来語に後接して合成語を形成するため、字音接尾辞であると考えられる。

字音接尾辞の「歴」は、辞書では「…の経験。」(『新選国語辞典 第九版』(小学館2011))と記述されるにとどまっている。単純明快な意味記述にとどまっており、管見の限り「歴」について詳細に論じられるものはない。しかし、字音接尾辞の「歴」はどのような前接語と共起し、「歴」を後接要素とする合成語はどのように使われ、字音接尾辞の「歴」はどのように解釈されるのか、といった問題を詳しく検討する必要があると考えられる。本稿はコーパスから収集した具体例に基づき、字音接尾辞の「歴」の前接語や使われ方について考察する。

2. 資料と用例

本稿では字音接尾辞「歴」の抽出にコーパス検索アプリケーション「中納言」を使用し、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下、BCCWJ。中納言バージョン2.6.0。)を2022年8月6日に短単位検索で検索した。検索条件と検索結果は以下の通りである。

検索条件として、キーを未指定にし、後方共起をキーから1語に設定した。「書字形出現形 が 歴 AND 語彙素読み が レキ」という指示で検索し、985例の検索結果が得られた。その後、各例を目視し、「フランス歴史学革命」「中収入、中学歴」のよ

うに字音接尾辞とは言えない誤解析の例や、「旧歴」「明歴元年」のように「暦」の誤字として使われる例が混在するため、これらを除去し、最終的に異なり語数 362、延べ語数 911 の用例を対象とした。

3. 「歴」の前接語について

3.1 「歴」の前接語の全体像

まず、字音接尾辞の「歴」はどのような前接語と共起するかという問題を確認する。出現頻度 10 以上で、頻繁に使われる前接語を次の(1)で示す。計 16 形式である。

- (1) 既往 (60)¹⁾、家族 (34)、保護処分 (23)、修復・生育 (22)、犯罪・彼女いない (19)、離婚 (18)、刑事処分 (14)、結婚 (13)、ゴルフ・活動・逮捕 (12)、運転・事故 (11)、受賞 (10)

「既往歴」「家族歴」といった専門用語に近い慣用的な語例は多く使われている。「ゴルフ」以外は漢語であり、漢語は使用頻度が高いものが多いことがわかる。「彼女いない」という語レベルでない形式も延べ 19 例使われている。

次に、出現頻度 9 以下の前接語を次の表 1 で示す。出現頻度が多ければ多いほど、共起する前接語が少なく、出現頻度 1 の前接語は圧倒的に多く、計 231 形式もある。

表 1 「歴」の出現頻度 9 以下の前接語

出現頻度	例
9	テニス、学校 (計 2 形式)
8	DIY、スポーツ (計 2 形式)
7	HRT、海外渡航、喫煙、受刑 (計 4 形式)
6	違反、治療 (計 2 形式)
5	PC、モデル、過食、学習、株式投資、競技、出題、生活、通院、入院、年金 (計 11 形式)
4	IFN 治療、アレルギー、ファン、飲酒、交際、指導、執行猶予、手術、少年院送致、代表、中絶、秘書、副作用 (計 13 形式)
3	OL、インターネット利用、オークション、ガイド、プロレスファン、お弁当、加入、漢方治療、業務、出演、組合活動、滞在、闘争、透析、派遣、優勝など (計 25 形式)
2	いなり寿司、ギター、キャンプ、サッカー、ヤフオク、運動、議員、教員、栽培、自殺未遂、写真、社会人、出産、転職、弁護士、免許、予防接種など (計 56 形式)
1	CIA、アルバイト、オーナー、コレクション、シングルパパ、ボランティア、飲食店、園芸、記者、拒食、剣道、撮影、出場、窃盗、太鼓、搭乗、不登校など (計 231 形式)

さらに、表 2 に語種別の内訳を示す。

表 2 「歴」の前接語の語種別内訳

語種	異なり語数	延べ語数	例	
漢語	二字漢語	175 (48.3%)	547 (60.0%)	既往、修復、生育、犯罪、離婚、結婚
	三字漢語	14 (3.9%)	18 (2.0%)	副作用、社会人、飲食店、覚醒剤
	四字漢語	23 (6.4%)	74 (8.1%)	保護処分、海外渡航、執行猶予
	五字以上漢語	4 (1.1%)	8 (0.9%)	少年院送致、有機溶剤濫用
	小計	216 (59.7%)	647 (71.0%)	—
和語	27 (7.5%)	34 (3.7%)	付き合い、株、仕事、取引、引越し	
外来語	76 (21.0%)	150 (16.5%)	ゴルフ、DIY、スポーツ、モデル	
混種語	33 (9.1%)	47 (5.2%)	株式投資、クレジット利用、パン作り	
それ以外	10 (2.8%)	33 (3.6%)	彼女いない、彼氏いない、喫煙や飲酒	
計	362 (100.0%)	911 (100.0%)	—	

前接語は漢語が圧倒的に多く、異なり語数の約 6 割、延べ語数の約 7 割を占めている。次に多いのは外来語であり、異なり語数は 20% を超えている。和語と混種語は 10% 未満で、比較的少ない。延べ語数が異なり語数に比べて多いのは漢語で、そのうち、特に二字漢語と四字漢語である。「既往」が 60 回、「家族」が 34 回、「保護処分」が 23 回、「刑事処分」が 14 回出現したことによるところが大きい²⁾。

3.2 「歴」の前接語の分類

4. で後述する、「歴」を後接要素とする合成語をどのように使われているかを踏まえて、「歴」の前接語を持続期間があるかどうかによって、3 分類する。

まず、前接語が持続期間がある性質・状態・動作を表す場合である。例えば、人間の職業や性質、状態を表す「モデル」「記者」「教師」「ホームレス」「主婦」「社会人」「胃病」「痛風」「米在住」などの語が挙げられる。人間の性質や状態を表すため、当然ながらその性質や状態が継続しており、持続期間があると考えられる。また、趣味や活動を表す「DIY」「ダイビング」「太鼓」「囲碁」「投資」「飲酒」などの語が挙げられる。「投資する」「飲酒する」などの語は動作を表すが、時間をかけて行う動作であるため、持続期間があると考えられる。

これらの語例は、持続期間がある性質や状態、ある程度時間をかけて行う動作を表し、線として継続的に捉えるものである。「5 年のモデル歴」や「太鼓歴 6 ヶ月」「長い投資歴」といったように、「～年／～ヶ月／長い」などの修飾語で表現することができる。

次に、前接語が持続期間がない動作を表す場合である。「キャンセル」「離婚」「逮捕」

「受刑」「自殺未遂」「来日」「家出」などの語が挙げられる。これらの語例は、動作を表すことが多いが、その動作が継続性に欠け、時間幅がないと考えられる。点としてひとまとまり的に捉えている。「～年／～ヶ月／長い」などの表現ではなく、「2回の離婚歴」「自殺未遂3回」「逮捕歴が多い」といったように、「～回／多い」などの修飾語で表現することができる。

最後に、前接語が持続期間があるかどうか言えない場合である。「家族」「過去」「既往」「学校」「業務」「思想」「健康」「人生」「生育」などの語が挙げられる。これらの語例は専門用語に近い慣用的な語が多い。例えば、「家族歴は？」と聞かれると、「特になし」あるいは「父親はⅡ型糖尿病」といったように答えることができるが、「5年の家族歴」でも「3回の家族歴」でも表現することができず、持続期間があるかどうかによって分類することができない。

異なり語数を含めて前接語の3分類を示すと次の表3の通りである。

表3 「歴」の前接語の3分類

分類	異なり語数	語例
持続期間がある語	243 (67.1%)	モデル・記者・ホームレス・主婦・痛風・囲碁・飲酒
持続期間がない語	91 (25.1%)	キャンセル・離婚・逮捕・受刑・自殺未遂・来日・家出
どちらとも言えない語	28 (7.7%)	家族・過去・既往・学校・業務・思想・健康・人生
合計	362 (100.0%)	

4. 「歴」を後接要素とする合成語がどのように使われているか

3.で「歴」の前接語について見てきた。4.では「歴」を後接要素とする合成語が実際にどのように使われているかという問題を取り上げ、特に特徴的な使われ方を中心に詳しく見ていきたい。

4.1 「期間」を表現する用法

「期間」を表現する用法として、「～歴」が使われる場合は、「～」の経験がどれくらい長さかという内容を表現する。具体例を示すと、以下の(2)～(10)ようになる。

- (2) 妻のOL歴が二十年未満で、かつ年収が八百五十万円未満であれば『加給年金』のかわりに『振替加算』がある。(PM41_00111 45000)³⁾
- (3) スチュワーデス歴が十年を越え、パーサーに昇格している亜紀子はそう云って、泡の中で肢体を左右に動かした。(OB5X_00151 4150)
- (4) さすが編集者歴二十五年、相手の表情に不穏な空気を嗅ぎつけるのがはやい。

(LBm8_00017 34870)

- (5) 娘は2歳9か月にして、園芸歴約2年です。(PM31_00882 10560)
- (6) 麻雀歴が長いだけではダメなのです。(PB27_00085 92420)
- (7) 森君、実はサーフィン歴十年だなんて知らなかった。(PM41_00555 32180)
- (8) 彼女いない歴が長ければ長いほど、女性は近寄りがたくなるものでしょうか？
(OC09_09634 40)
- (9) 糖尿歴二十年目を迎えました。(OC09_10343 10)
- (10) 雪美さんの不登校歴は長く、小学校二年生のときに遡ります。
(PB53_00233 56210)

(2)～(4)の前接語は人間の職業や性質を表すものである。(5)～(7)の前接語は趣味・活動を表すものである。(8)～(10)の前接語は人間の状態を表すものである。波線で示したように、「～年」「～ヶ月」「長い」「長期」「浅い」などの表現とともに用いられる。(3)は「スチュワーデス」の経験が10年以上の長さであるという内容を表す。(5)は「園芸」の経験が約2年の長さであるという内容を表す。(10)は「不登校」の経験が長いという内容を表す。

また、例(2)～(10)からわかるように、期間を表現する用法として使われる前接語は、3.2で見てきた持続期間がある語に当てはまる。

4.2 「回数」を表現する用法

「回数」を表現する用法として、「～歴」が使われる場合は、「～」の経験がどれくらいあるか、どれくらい多いかという内容を表現する。具体例を示すと、以下の(11)～(14)のようになる。

- (11) 離婚歴三回、四人の子供がいる十二歳年上の男性で、父親の温かさを知らないオードリーにとっては自分を守ってくれる存在だったのだろう。
(PM11_00181 23360)
- (12) 法務総合研究所では、多数回の受刑歴があつて仮出獄を許された者の特性及びこれらの者に対する保護観察の実情を明らかにするため、……(下略)。
(OW3X_00111 10380)
- (13) 就任発表後、2件の逮捕歴と経済的な問題を抱えていることが発覚したためという。
(PN4d_00014 9930)
- (14) 麻生晴一郎 千九百六十六年生まれ。四十回近い訪中歴をもつ。
(PM51_00248 730)

回数を表現する用法として使われる場合は、波線で示したように、「～回／台／個…」 「多い」「数々の」などの表現とともに用いられる。(11)は「離婚」の経験が3回あるという内容を表す。(12)は「受刑」の経験が多数回あるという内容を表す。

また、回数を表現する用法として使われる前接語は、3.2 で見てきた持続期間がない語に当てはまり、点として1つの事態をひとまとまり的に捉えている。

4.3 「有無」を表現する用法

「有無」を表現する用法として、「～歴」が使われる場合は、「～」の経験があるかないかという内容を表現する。具体例を示すと、以下の(15)～(18)のようになる。

- (15) 高血圧の家族歴がないにもかかわらず、高血圧が認められる。
(LBo4_00060 47520)
- (16) さらに治療歴のない患者でも最初から耐性のあるウイルスに感染する例が見られます。
(LBo4_00016 41650)
- (17) 栗山の本籍地である伊勢原市役所をあたったところ、栗山には結婚歴のあることがわかった。
(OB1X_00087 23540)
- (18) もちろん打撃コーチとしての腕を買われてのもので、ファームの区分けでいえばウエスタン・リーグに属する6球団、すべてで指導歴があるという稀有な存在だ。
(LBS7_00036 52310)

波線で示した「ない」「ある」、それ以外に「有無」「持っている」などの表現が明示されている。(16)は「治療」の経験がないという内容を表す。(17)は「結婚」の経験があるという内容を表す。なお、有無を表現する用法として使われる前接語は特に限定されず、「ある」「ない」など有無を表す表現が明示されると、すべての前接語が有無を表現する用法になりうる。

4.4 「詳細」を表現する用法

「詳細」を表現する用法として、「～歴」が使われる場合は、「～」の経験が具体的に説明される。具体例を示すと、以下の(19)～(21)のようになる。

- (19) サッカー歴は入一サッカークラブ—東京ガスサッカー学校—読売メニーナ—村田女高一日体大。
(OC06_01857 1170)
- (20) 私の教員歴は概略次のようなものです。1 昭和四十四年二月から船橋市立習志野台第一小学校奉職。視聴覚主任。一年・四年・五年学年主任。2 昭和五十年四月から船橋市立高根中学校。数学教師。陸上競技部顧問。生徒指導主事。

学年主任。教育委員会の指導室長鈴木英司先生に教頭試験の受験を勧められたが、断った。(下略)。(PB42_00160 25660)

- (21) ■主な代表歴：国際 A マッチ 1 試合 0 得点 (二千五年親善試合グアテマラ戦) U-二十三 (二千三) 二千三カタール国際大会等 U-二十 (千九百九十八-二千二) 二千一年 U-二十南米選手権 (優勝) (OY15_03737 5400)

(19)は「サッカー歴」、(20)は「教員歴」、(21)は「代表歴」の期間や回数、有無だけではなく、時間軸においてどのように展開されるのか、その具体的な内容を説明している。例えば、(19)は子供時代から大学までどこでサッカーをしていたか、「サッカー」の経験について時間順に詳しく説明している。

また、詳細を表現する用法として使われる前接語は 4.3 の有無を表現する用法と同様に、特に限定されず、「～」の経験が具体的に説明される文脈であれば、詳細を表現する用法になりうる。

4.5 前接語との関係

上述したように、期間を表現する用法として使われる前接語は、3.2 で見てきた持続期間がある語に当てはまる。回数を表現する用法として使われる前接語は、持続期間がない語に当てはまり、点として1つの事態をひとまとまり的に捉えている。しかし、例外も存在する。

- (22) 記事によれば、美しいソリーンの結婚歴は二回だけれど、いまやニコラス・ディ・フィオロ・フランキラ伯爵をコレクションに加えることを考慮ちゅうだという。(PB59_00024 54300)
- (23) アメリカの研究で、四十年以上の結婚歴のある夫婦を連れて来て、こちらの部屋には旦那さん、向こうの部屋には奥さんというふうに別々の部屋に入れて、相互の配偶者の好きな食べ物を言わせ、それがどれだけ当たるかということ調べた人がいる。(PB31_00051 41500)
- (24) 覚えている範囲でなんと車歴二十七台！(PM21_01099 1560)
- (25) 今考えてみると、ATM車なので、ブレーキがエンジンの回転を止められなくなってブレーキが発した音だったと思うんですが、マニュアル車歴の長かったおいらには、パニックを起こさせる音でした。盛んに渋滞の中でアクセルを吹かしこの異常音を聞く羽目に。(OY11_02976 35060)

(22)(23)は同じ「結婚歴」であるが、(22)の波線の「二回」、(23)の波線の「四十年以上」からわかるように、(22)は回数を表現する用法で、(23)は期間を表現する用法で

ある。「結婚する」は持続期間がない動作（日本語記述文法研究会編 2007：84）とされているため、「結婚」は持続期間がない語に分類される。しかし、「結婚しているという状態が40年以上持続している」という解釈もできるため、(23)のように、期間を表現する用法も成立すると考えられる。

また、(24)(25)は同じ「車」であるが、(24)の波線の「二十七台」、(25)の波線の「長かった」からわかるように、(24)は回数を表現する用法で、(25)は期間を表す用法である。「車を持っている」というように状態が持続しているという解釈が一般的であるため、「車」は持続期間がある語に分類される。しかし、(24)のように、「一台の車を持つ」ことを線として継続的に捉えるのではなく、点としてひとまとまり的に捉えているため、回数を表す用法も成立すると考えられる。

一方、有無を表現する用法と詳細を表現する用法は前接語と関係なく、その文脈で使われれば、すべての前接語が有無を表現する用法、詳細を表現する用法になりうる。

- (26) 学生時代の数々の受賞歴も手伝い、ワーナー・ブラザーズ映画アニメーション部門の長期見学及び研修の権利を獲得したルーカスは、早速その門を叩く。
(PB57_00212 35530)
- (27) 今回は国内のみならず、カナダや大韓民国など海外でも受賞歴のある作品を含む全十九タイトルが上映される。
(PM11_00080 21390)
- (28) 受賞歴 広告電通賞／朝日広告賞／東京 ADC 賞／日本パッケージデザイン協会パーソン・オブ・ザ・イヤー賞
(PB10_00056 45730)

「受賞」は持続期間がなく、点としてひとまとまり的に捉える語であるため、(26)のように回数を表現する用法として使われるのが特筆すべきことではない。(27)の「ある」や(28)のように「受賞」の経歴を詳しく説明される文脈で使われると、有無を表現する用法、詳細を表現する用法になる。

4.6 用法の量的な特徴

前節まで、「歴」を後接要素とする合成語が実際にどのように使われているかという問題を、期間・回数・有無・詳細を表現するといった特徴的な使われ方を中心に詳しく見てきた。それ以外に、「期間・回数・有無・詳細」のどれには当てはまらず、(29)～(31)のように、単純に「～」の経験という意味で使われ、特徴的な使われ方でない場合や、(32)(33)のように単独で使われる場合も存在する。

- (29) ちょっとここで、元衆議院書記官長大木操氏が書いた『激動の衆議院秘話』から、私のゴルフ歴に関する部分を抜粋して拝借してみよう。

(OB2X_00186 1870)

- (30) アルツハイマー病の四十五人の患者と、そうでない四十五人の脳を調べて、遺伝的経歴と、ウイルスの感染歴を比較検討した研究がある。

(PB14_00242 22040)

- (31) これらの機器は、部品交換による修理が比較的多く、注意深く点検すれば、必ず修復歴を見つけることができます。

(PB15_00032 45540)

- (32) なお当該薬剤管理指導記録には、次の事項を記載し、最後の記入の日から最低3年間保存する。ア 患者の氏名、生年月日、性別、住所、診療録の番号 イ 患者の投薬歴、副作用歴、アレルギー歴 ウ 薬学的管理の内容（医薬品の保管状況、服薬状況、重複投薬、配合禁忌などを含む。）エ 患者への指導および患者からの相談の要点 オ 訪問指導等の実施日、訪問指導を行った薬剤師の氏名 カ その他の事項

(PB24_00024 23570)

- (33) GNCのチャンピオンで、スクールのインストラクターも務めた、クリス・カー選手のサイン入りTシャツを2名様にプレゼントするよん。1住所2氏名3年齢4職業5愛車名6 ダートラ歴、もしくはダートラ観戦歴7本誌でとくに取上げて欲しいモータースポーツは？ 各項目を明記のうえ、次のあて先まで。

(PM15_00214 46820)

特徴的な使われ方でない場合や単独で使われる場合も含めて、各用法の用例数を次の表4に示す。

表4 各用法の用例数

用法	用例数	比率	
特徴的な使われ方	期間を表現する用法	320	35.1%
	回数を表現する用法	37	4.1%
	有無を表現する用法	172	18.9%
	詳細を表現する用法	26	2.9%
	小計	555	60.9%
特徴的な使われ方でない場合や単独で使われる場合	356	39.1%	
合計	911	100.0%	

特徴的な使われ方は約6割で、特徴的な使われ方でない場合や単独で使われる場合は約4割である。特徴的な使われ方の中で、最も多いのは期間を表現する用法であり、35%を超える。次に多いのは有無を表現する用法で、約2割を占める。回数を表現する

用法と詳細を表現する用法の用例数は多くない。

5. 名詞の分類とほかの言語現象との関係

名詞の下位分類としては、「実質名詞」と「形式名詞」、「普通名詞」と「固有名詞」はよく取り上げられるが、構文的な振る舞い方に基づき、名詞の下位分類を試みたものには寺村（1968）がある。寺村（1968）は構文的な振る舞いを担保として、名詞が持っている意味的特性を「実質性」「モノ性」「トコロ性」「コト性」「有情」「非情」「形容詞性」「相対性」「トキ性」「動詞性」「形式性」に分類している。意味的特性と構文的機能を結び付けながら、名詞の下位分類を試みた先駆的な研究といえよう。しかし、本稿における持続期間があるかどうかによる名詞の分類は言及されていない。

本稿は前接語、つまり名詞を持続期間があるかどうかによって分類を試みた。この分類は字音接尾辞「歴」の考察だけでなく、ほかの言語現象にも関係があり、名詞のもう1つの重要な特性ではないかと主張したい。

例えば、「読む」「遊ぶ」「設ける」「死ぬ」などの動詞の場合、時間幅を持つ動きであるかどうかによって、継続動詞と瞬間動詞に分類され、テイル形の意味との関わりも一般的に論じられている（日本語記述文法研究会編 2007）。動詞において、持続期間があるかどうかによる分類はアスペクトと深く関わる重要な観点である。

さらに、工藤（1995）によると、同じ「作る」という持続期間がある動詞でも、(34)のように、動作全体を点的・ひとまとまり的に捉える場合は、スル形を用い、(35)のように、動作全体を線的・継続的に捉える場合は、テイル形を用いる。

(34) 「昨日、妹がつくってくれというのでピンポンの台を作ったよ」

(工藤 1995 : 81)

(35) 「小母ちゃんが来ていて荷物を作っていた」

(工藤 1995 : 82)

これは(24) ((36)に再掲) (25) ((37)に再掲) で述べた「車歴」の用例に共通する部分があると考えられる。「車を持っている歴」というように理解すると、状態がずっと持続しており、期間を表現する用法と解釈される。一方、(36)のように、「一台の車を持つ」ことを線として継続的に捉えるのではなく、点としてひとまとまり的に捉えることも可能であるため、回数を表す用法と解釈されるのである。

(36) 覚えている範囲でなんと車歴二十七台！ ((24)の再掲)

(37) 今考えてみると、ATM車なので、ブレーキがエンジンの回転を止められなくなってブレーキが発した音だったと思うんですが、マニュアル車歴の長かったおいらには、パニックを起こさせる音でした。盛んに渋滞の中でアクセルを吹

同じ語であるにもかかわらず、点的に捉えるか、線的に捉えるかによってその解釈も違うという現象は、工藤（1995）の指摘に共通すると思われる。

このように、持続期間があるかどうかによる名詞の分類は、動詞と同様に、アスペクトとの関係への示唆が期待される。

さらに、持続期間があるかどうかによる名詞の分類はアスペクトだけではなく、「～ノ＋動名詞＋ヲスル」という形式が用いられることができるかどうかという言語現象にも関係がある。中川（2014：166）によると、「逮捕」「キャッチ」は持続期間がない動作であるため、「犯人の逮捕をする」「ボールのキャッチをする」のような言い方は不自然である。それに対して、「研究」は持続期間がある動作であるため、「外交史の研究をする」のように、「～ノ＋動名詞＋ヲスル」という形式が用いられることができる。

以上のように、持続期間があるかどうかによる名詞の分類は字音接尾辞「歴」の考察や、アスペクト、「～ノ＋動名詞＋ヲスル」という形式の分析にも有意義であり、名詞のもう1つの重要な特性だと考えられる。

6. おわりに

本稿はコーパスから収集した具体例に基づき、字音接尾辞の「歴」の前接語や使われ方について考察した。「歴」を後接要素とする合成語が実際にどのように使われているかという問題を、特徴的な使われ方を中心に、期間・回数・有無・詳細を表現する用法に分類した。また、「歴」の前接語を持続期間があるかどうかによって分類した。期間を表現する用法として使われる前接語は持続期間がある語に当てはまり、回数を表現する用法として使われる前接語は持続期間がない語に当てはまり、有無を表現する用法と詳細を表現する用法は前接語と関係がないというように、「歴」の前接語と使われ方の関係も指摘した。

今後の課題として、まず接尾辞「歴」のような造語成分のヴォイス的關係⁴⁾が挙げられる。「逮捕歴」は常に逮捕された経歴という受身的な解釈がされており⁵⁾、逮捕した経歴という能動的な解釈ではない。造語成分間におけるヴォイス的關係について、齋藤（2016）において詳しく論じられている。なぜ「逮捕歴」という語レベルだけで受身的な解釈が成り立つのか、接尾辞の「歴」も齋藤（2016）の考察と同様の特徴が見られるのか、ほかにヴォイス的關係が見られる字音接辞はあるのか⁶⁾、などの課題が残されている。

さらに、本稿は5.で接尾辞「歴」がテンス・アスペクトと共通する現象を指摘したが、山下（2018）と張（2018）によると、「退出時」の「時」や、「昨年来」の「来」、「夕食後」の「後」、「紀元前」の「前」など、時間を表しテンス・アスペクトに関わる字音接

尾辞がある。和語表現との比較や、漢語表現とテンス・アスペクトとの関係も今後の課題である。

注

- 1) 括弧内の数字は出現頻度（延べ語数）を意味する。
- 2) 3.1節では「歴」の前接語の全体像を示したが、これは、「歴」を後接要素とする合成語がどのように使われ、字音接尾辞の「歴」がどのように解釈されるのか、といった問題とどのような関係があるのか、何を意味するのかについては今後の課題としたい。
- 3) 出典はBCCWJのサンプルIDと開始位置である。下線と波線は筆者によるものである。また、例文における漢数字や算用数字、アルファベット表記はすべて原文のままである。
- 4) 木村（2019:97）では、造語成分間のヴォイス的關係の考察は語彙論の中でも重要な課題だと指摘されている。
- 5) 影山（1996:138）では「逮捕者」「逮捕歴」で受身的關係が見られる例が指摘されている。
- 6) 野村（1977:272-273）では、「使用人」は「誰かによって使用される人」という受身的關係であると指摘し、「誰かを使用する者」という能動的關係を持つ「使用者」と対比させている。

使用資料

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』国立国語研究所. <http://chunagon.ninjal.ac.jp/>

参考文献

- 影山太郎（1996）『動詞意味論—言語と認知の接点』くろしお出版
- 木村義之（2019）「第七章 語彙の創造」石井正彦（編）『シリーズ〈日本語の語彙〉
1 語彙の原理—先人たちが切り開いた言葉の沃野—』pp.83-101. 朝倉書店
- 工藤真由美（1995）『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』ひつじ書房
- 斎藤倫明（2016）『語構成の文法的側面についての研究』ひつじ書房
- 張明（2018）「字音接辞の分類」『学習院大学大学院日本語日本文学』14. pp.130-101.
学習院大学人文科学研究科日本語日本文学専攻
- 寺村秀夫（1968）「日本語名詞の低位分類」『日本語教育』12. pp.42-57. 日本語教育学会
- 中川秀太（2014）「第6章 名詞の諸問題」沖森卓也・山本真吾・木村義之・木村一

(編)『品詞別 学校文法講座 第二巻 名詞・代名詞』. pp.156-188. 明治書院
日本語記述文法研究会編 (2007)『現代日本語文法3 第5部アスペクト 第6部テ
ンス 第7部肯否』くろしお出版
野村雅昭 (1977)「造語法」『岩波講座日本語9 語彙と意味』. pp.245-284. 岩波書店
山下喜代 (2018)「字音形態素のカテゴリー化—接辞を中心に—」『青山語文』48.
pp.217-228. 青山学院大学日本文学会

(ちょう・めい 博士後期課程修了)